



海軍公報

(部内限) 第四千三百八號

昭和十八年二月四日(木)

海軍大臣官房

○ 辭 令

海軍總政本部出仕兼海軍航
空本部出仕海軍主計中尉

住友 務

東京監査官附ヲ命ス

同

高村健一郎

長崎監査官附ヲ命ス

同

吉野 道夫

東京監査官附ヲ命ス

同

木村 芳雄

大阪監査官附ヲ命ス

同

犬塚 悌臣

東京監査官附ヲ命ス

同

高橋 達男

神戸監査官附ヲ命ス

同

伊藤 寛

(各通)

海軍航空本部出仕兼海軍
軍務部出仕海軍主計中尉

石村 善一

名古屋監査官附ヲ命ス

八幡監査官附ヲ命ス

同

田中 寛三

名古屋監査官附ヲ命ス

同

太田 靖彦

東京監査官附ヲ命ス

同

伊藤 長正

玉野監査官附ヲ命ス

同

齋藤 善雄

名古屋監査官附ヲ命ス

同

黒木 士郎

神戸監査官附ヲ命ス

同

中村 健治

東京監査官附ヲ命ス

同

竹井 辰

廣島監査官附ヲ命ス

同

大田 芳太郎

2023 (限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千三百八號 昭和十八年二月四日

一一七

富山監査官附ヲ命ス	同	古西一郎
大阪監査官附ヲ命ス	同	八太徹
名古屋監査官附ヲ命ス	同	野村收
東京監査官附ヲ命ス	同	桑本修吉
神戸監査官附ヲ命ス	同	岡本忠男
(各通)	同	西村恒太郎
大阪監査官附ヲ命ス	同	山田陽一
廣島監査官附ヲ命ス	同	松浦明
(各通)	同	若林介
大阪監査官附ヲ命ス	同	橋上久
(各通)	同	中西清
東京監査官附ヲ命ス	同	大槻慶治
神戸監査官附ヲ命ス	同	中田八郎
東京監査官附ヲ命ス	同	紙田三郎
大阪監査官附ヲ命ス	同	岡本彰夫
東京監査官附ヲ命ス	同	木村義一
大阪監査官附ヲ命ス	同	手塚敏郎
(各通)	同	堀越善雄
東京監査官附ヲ命ス	同	荒川信美
瀨岡監査官附ヲ命ス	同	安川義雄
(各通)	同	穂本繁久
東京監査官附ヲ命ス	同	川崎稔

○ 雜 款

○郵便局指定
從來各部ヨリ送金(爲替類)ノ場合指定郵便局區々ニ
亘リ處理上不便不尠ニ付自今左記郵便局ヲ指定シ送付
相成度

横須賀市久里濱郵便局

(海軍通信學校)

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

二月二十五日迄ニ到達見込ノモノハ

其ノ後ハ

(特務艦筑紫)
(第一測量隊)

隊司令宛

隊軍醫長宛

隊機關長、隊主計長宛

(第六十一驅逐隊)

宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザル
コト

一 五洲丸

横須賀局氣付(第十二軍用郵便所經由)五洲丸

一 健洋丸
横須賀局氣付(第十軍用郵便所經由)健洋丸
一 雉
吳局氣付(第二十八軍用郵便所經由)雉

○書類送付ニ關スル件

當隊宛書類ニシテ戰鬪機關係事項ハ大村派遣隊指揮官、攻撃機關係事項ハ沖繩派遣隊指揮官へ寫一部直送方取計ヲ得度

追テ郵便物ハ左ニ依リ發送相成度

大村派遣隊宛

長崎縣大村市大村海軍航空隊氣付

佐世保海軍航空隊大村派遣隊指揮官

沖繩派遣隊宛

沖繩縣那霸郵便局氣付

海軍日名子部隊指揮官

(佐世保海軍航空隊)

東港海軍航空隊(現在八五一空)又ハ同司令宛ノ書類

ヲ當基地ニ送付シ來ルモノ收學ニ違無ク之ヲ同隊宛回

送シツツアル現狀ニ有之斯クテハ事務進上多大ノ遅

延ヲ來スニ付自今左ニ依リ送付相成度

一 當基地宛ノモノ

臺灣高雄州東港郡

東港航空基地(指揮官)

海軍公報(部内限)第四千三百八號 昭和十八年二月四日

海軍公報(部内限) 第四千三百八號 昭和十八年二月四日

二二〇

一 第八五一海軍航空隊(元東港海軍航空隊)

横須賀郵便局氣付

ウ一〇五 ッ七四

○事務開始

第五十航空戰隊司令部ハ一月十五日鹿屋海軍航空隊内

ニ於テ事務ヲ開始セリ

追テ郵便物ハ左ニ依リ發送相成度

鹿兒島縣鹿屋市

鹿屋海軍航空隊内 海軍酒卷部隊宛

(第五十航空戰隊司令部)

海軍練習聯合航空總隊司令部ハ二月一日霞ヶ浦海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第八號掃海特務艇艦裝員事務所ヲ一月三十日撤去セリ

追テ郵便物ハ左ニ依リ發送相成度

横須賀防備隊氣付

(第八號掃海特務艇)

○正誤

一月二十七日附公報(部内限) 感狀欄八十三頁下段一行目「ヒマトラ」ハ「ヒトラマ」ノ誤

○本日普通公報發行セズ

海軍公報

(部内限) 第四千三百九號

海軍大臣官房

昭和十八年二月五日(金)

○令 達

官房經第一五三號

昭和十五年官房第五三一三號中左ノ通改正ス

昭和十八年二月五日

海 軍 大 臣

別表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表)

國 名	支給率	適用期間
佛 國	〇、三〇	昭和十七年十月乃至十二月
獨 國	〇、一五	同
瑞 國	〇、三五	同
伊 國	〇、一〇	同
西 牙	〇、三〇	同
瑞 典	〇、四〇	同
洪 牙 利	〇、一〇	同
ルーマニヤ	〇、二〇	同
ブルガリヤ	〇、一〇	同
葡 萄 牙	〇、五〇	同
芬 蘭	〇、四〇	同
白 耳 義	〇、二〇	同
土 耳 古	〇、一五	同
ソ 聯	〇、四〇	同
伊 蘭	〇、二〇	同
佛領モロツコ	〇、二〇	同
アフガニスタン	〇、二〇	同
ケニヤ殖民地	〇、二五	同

海軍公報(部内限) 第四千三百九號

昭和十八年二月五日

智	利	〇、四〇	同
亞爾然	丁	〇、三〇	同
泰	國	〇、四〇	同
備考	本表中泰國ノ支給率ノ適用ヲ受クル者ハ同國帝國大使官附武官同輔佐官及同國駐在員ニ限ル		

○ 辭令

第十二海軍軍用郵便所長ヲ命ス
 通信事務官 松本朝五郎

(各通)
 通信書記補 荒井文雄
 同 竹本岩夫
 遞信局書記補 小島慶治

第十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス(以上^{昭和十七年}海軍省)
 通信書記 原間貞次

(各通)
 同 田上研徹
 通信書記補 宮本政義

第八通信隊附ヲ免シ東京海軍通信隊附ヲ命ス

(各通)
 通信書記 山本信一
 同 森喜久丸
 通信書記補 鈴木信次

東京海軍通信隊附ヲ免シ第六通信隊附ヲ命ス
 通信書記 大畑要一
 集配員 武田義治

(各通)
 第四十一海軍軍用郵便所員ヲ免ス
 集配員 稻葉芳之

第五海軍軍用郵便所員ヲ免ス(以上^{昭和十七年}同)
 通信書記 拓植安朋
 同 北村幸雄

(各通)
 第八海軍軍用郵便所員ヲ命ス
 事務員 小林實
 同 多田忠雄
 集配員 妹尾富市

第八海軍軍用郵便所員ヲ命ス
 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上^{昭和十七年}同)
 海軍中佐 淺田昌彦

第一課勤務ヲ命ス(以上^{昭和十七年}海軍省軍務局)
 海軍主計中尉 高戸順隆

驅逐艦涼月ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦

隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(五)支出官 海軍省
 經理局長)

海軍主計中尉 西村 正雄

第三十設營隊ニ要スル給與及其ノ他經費支拂ノ爲艦
 隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(三)同)

○ 雜 款

○普通軍事教育圖書
 昭和十八年一月中納庫セル普通軍事教育圖書左ノ如シ
 (海 軍 文 庫)

圖 書 名	標 記 番 號	類 別
武士道全書 第九卷	海軍省教普 第千六百九十五號九	備 品
世界戰史 東洋戰史(2) 大戰史太平洋侵略史	海軍省教普 第千六百八十號三	消 耗 品
新選大地圖 日本篇	海軍省教普 第千七百二十八號	消 耗 品
新選大地圖 外國篇	海軍省教普 第千七百二十九號	消 耗 品
教育參考資料(一般) 第七號	海軍省教普 第千七百十號三	消 耗 品
南方の全貌		消 耗 品 扱
北太平洋の實相		消 耗 品 扱

○ 正 誤

昭和十七年經物機密第三二號左記中停止期間一年ノ項中

一 年 大阪大正區三軒家西三ノ 藤 田 組 土木請負業 吳出張所主任
 三六 木 下 哲 三

六ヶ月 東京市日本橋區濱町二ノ 株式會社藤田組 土木請負業 吳出張所主任
 二二 林 下 哲 三

〔内藤 晃〕ハ〔藤内 晃〕ノ執レモ誤

(参照) 昭和十八年一月十三日海軍公報(部内限)號外通標欄

海軍公報(部内限)第四千三百九號 昭和十八年二月五日

海軍公報 (部内限) 第四千三百十號

昭和十八年二月六日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房教第一二號

昭和十八年任官ノ見習尉官出身各科中少尉ノ實務練習ニ關スル特例左ノ通定ム

昭和十八年二月五日

海軍大臣

昭和十八年任官ノ見習尉官出身各科中少尉ノ實務練習ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルノ外見習尉官及同出身各科中少尉實務練習規則(昭和十七年達第三百三十三號)ノ定ムル所ニ依ル

一 永久服役ノ軍醫科、藥劑科及齒科醫科ノ中少尉ノ

第二期實務練習期間ヲ三月トス

二 主計中尉ノ實務練習ハ各配屬先ニ於テ之ヲ實施ス

三 見習尉官及同出身各科中少尉實務練習規則第五條及第六條ノ技術中少尉ノ實習ハ之ヲ行ハス

官房教第四號ノ三

官房教第四號昭和十八年度及十九年度各種學生採用ノ件申左ノ通改正ス

昭和十八年二月六日

海軍大臣

別表中海軍大學校選科學生技術委託學生ノ項資格其ノ他ノ欄第二號「無線兵器、」ノ下ニ「爆撃兵器、射撃兵器、發著兵器、航空機用計器、」ヲ加フ

○通 牒

軍需機密燃第三〇號

昭和十八年二月四日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

航空礦油使用區分中改正ノ件通牒

昭和十七年軍需機密燃第一八二號通牒首題ノ件左記申左ノ通改メラレ候

海軍公報(部内限) 第四千三百十號 昭和十八年二月六日

「金星發動機 四〇型」ヲ「金星發動機 五四〇型」ニ、
 「榮發動機 一〇型」ヲ「榮發動機 二〇〇型」ニ、
 「火星發動機 一〇型」ヲ「火星發動機 二〇〇型」ニ改
 メ末尾ニ左ノ項ヲ加フ

護 發 動 機	一〇型
譽 發 動 機	一〇型
アツタ發動機	二〇型

(参照) 經營需品燃料取扱例規三三八頁

軍需機密燃第三一號

昭和十八年二月四日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

航空燃料使用區分ノ件中改正ノ件通牒

昭和十七年軍需機密燃第一八一號通牒首題ノ件中左記
 ノ通改メヲレ候

航空八〇分解揮發油ヲ使用スベキ發動機中

「天風發動機 一〇型」ヲ「天風發動機 一〇型」ニ改ム

記

航空八五揮發油ヲ使用スベキ發動機中
 「天風發動機 一〇型」ヲ削ル
 航空八七揮發油ヲ使用スベキ發動機中
 「金星發動機 四〇型」ノ項ノ次ニ「天風發動機 二〇型」
 ヲ加フ

航空九一揮發油ヲ使用スベキ發動機ノ項ヲ左ノ如ク改

震天發動機	二〇型
金星發動機	五〇型
火星發動機	一〇型
火星發動機	二〇型
榮發動機	一〇型
榮發動機	二〇型
譽發動機	一〇型
護發動機	一〇型
アツタ發動機	二〇型

航空九一揮發油

(参照) 經營需品燃料取扱例規三三八頁

軍需機密第八三號

昭和十八年二月六日

海軍省軍需局

關係各應御中

艦營需品受込還納ニ關スル件照會

艦船部隊ノ増強ニ伴ヒ艦營需品ノ所要量激増スルニ反シ資材ハ逼迫スル狀況ナルヲ以テ左記勵行相成度

記

- 一 艦營需品定額表ニ定數アルモノト雖モ當面ノ任務ニ鑑ミ當分使用ノ用途ナキモノ又ハ重要ナラザルモノハ受込マザルコトトセラレ度、消耗品ニアリテハ其ノ要望量ヲ考慮セラルルト共ニ極力消費節約ヲ計ラレ度、南方作戦地ニ進出セル部隊ガ現地ニ於テ武器類ヲ還納シ或ハ内地歸還部隊ガ一同モ使用セル形跡ナキ需品ヲ相當數還納セシ例多多アリ
 - 二 既ニ供給貸與ヲ受ケタルモノニシテ當分使用ノ見込ナキモノハ此ノ際努メテ還納セラレ度
 - 三 艦營需品ヲ還納スル場合ニハ其ノ儘使用可能ノモノト修理セザレバ再使用不可能ノモノトト問ハズ努メテ毀損セザルコトトセラレ度
- 自動車ノ還納ニ當リ計器類時計類其ノ他ノ部品ヲ取

外シ甚シキハ腰掛ノ張皮ヲ切取リタル例二、三ニ止マザル狀況ナリ

艦本機密第八號ノ一五五二

昭和十八年二月六日

海軍艦政本部長

横須賀、吳、佐世保海軍工廠長殿

陸上部隊急速出動時ノ供給材料ニ關スル件通牒

特別陸戰隊、防空隊其ノ他新設陸上部隊急速出動ノ際要スル各種應急器材中軍需部又ハ建築部等ニ於テ調達困難ナルモノニ對シ當該部隊ヨリ要求アリタル場合手持品アルトキハ臨時軍事費、臨時軍事費、造船造兵及修理費、造修費(ワニ)支辨トシ適宜供給ノ上供給月日、品名、數量、代價、用途等ヲ別紙様式ニ依リ速ニ報告スベシ
(別紙添)

○ 辭令

海軍主計中尉 井上 憲一
第二十六設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ

爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(三)支出官 海軍省經理局長)

○雜款

○司令驅逐艦變更

第十六驅逐隊司令ハ二月十二日司令驅逐艦ヲ時津風ニ變更セリ

第四驅逐隊司令ハ一月十六日司令驅逐艦ヲ舞風ニ變更セリ

第六驅逐隊司令ハ二月一日司令驅逐艦ヲ雷ニ變更セリ

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

司令、軍醫長宛

舞風

隊機關長、主計長宛

嵐

追テ各艦分離行動中ニ付司令、隊宛ニシテ各艦ニ關係アルモノハ寫直送相成度

(第四驅逐隊)

横須賀郵便局氣付

(特務艦足摺)

吳郵便局氣付

第二十九海軍軍用郵便所經由

(軍艦若鷹)

東舞鶴郵便局氣付

(第二十四號掃海艇)

司令、軍醫長、隊機關長宛

主計長宛

横須賀郵便局氣付

(第六驅逐隊)

○練習生採用試験問題送付ニ關スル件

當隊ハ第十二特別根據地隊本隊ト遠隔且交通極メテ不便ノ爲下士官兵ノ人事ハ單獨處理シツツアルニ付首題ノ件航空便ニテ左ニ直送相成度

臺北局氣付 イ貳五 イ參貳 イ貳八

(第十二特別根據地隊蘭貢分遣隊)

○學生入校期

客年十一月二十四日官房機密第一四五四八號ニ依ル本校第八期特修科學生(水中測的)ハ三月三日始業式ニ付其ノ前日迄ニ着校セシメラレ度

(海軍機雷學校)

海軍公報

(部内限) 第四千三百一十一號

昭和十八年二月八日(月)

海軍大臣官房

○ 辭 令

海務院技術員 山本市太郎
大湊海軍通信隊附ヲ命ス(十五海軍省)

氣象技師 角谷久五郎

大分海軍航空隊附兼第十二聯合航空隊司令部附ヲ命ス

同 箱田 顯雄

霞ヶ浦海軍航空隊附兼第十一聯合航空隊司令部附ヲ命ス(以上三同)

通信書記 村松 九一

同 早馬 義則

(各通) 貯金局書記 森 正雄

通信書記補 鮎澤 善次

同 齋藤 和男

第十三海軍軍用郵便所員ヲ命ス

事務員 渡邊 新次

同 新井 利徳

(各通)

同 新後閑 馨

同 市村 良一

同 大野 保太郎

同 中野 吉男

第十三海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上三同)

(各通)

第二十二特別根據地隊附海軍中尉 室田 太郎

第二十二特別根據地隊附海軍兵曹長 宮丸 博太

海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ニ指定ス

(各通) 第二警備隊附海軍中尉 三島 品吉

第二警備隊附海軍兵曹長 宅 幸太

海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ニ指定中ノ處指定ヲ解ク(以上三同)

(海軍大臣)

○ 雜 款

海軍公報(部内限) 第四千三百一十一號

昭和十八年二月八日

○書類再送
「アンボン」及「チモール」島方面宛郵便物(航空郵便ヲ除ク)ハ、自昭和十七年十一月二十四日開事故ノ爲不着ニ付再送ノコトニ取計相成度

(吳海軍港務部軍用郵便監督官)
(第二八海軍軍用郵便所軍用郵便監督官)

○事務所設置
州崎艦裝員事務所ヲ本月三日横濱海軍監督官事務所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所移轉
第一海軍衣糧廠設立準備委員事務所ハ、東京市品川区大井南濱川町埋立地ニ移轉セリ
電話高輪(44)一三一七番
外ニ海軍省交換ノ海軍専用電話アリ

○事務所開始
風早艦裝員事務所ヲ本月一日兵庫縣相生市相生播磨造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
特務艦足摺艦裝員事務所ハ一月三十日撤去セリ
第四十一號驅潜艇艦裝員事務所ヲ一月三十一日撤去セリ

追テ郵便物ハ左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局氣付 第四十一號驅潜艇

○正誤

二月四日附公報(部内限) 辭令欄中石村善一、池田純三、黒木士郎、野村 收ノ上「同」ハ孰モ「海軍航空本部出仕兼海軍艦政本部出仕海軍主尉」ノ誤

海軍公報 (部内限) 第四千三百十二號

昭和十八年二月九日 (火)
海軍大臣官房

○令 達

官房備第三三號

内閣
安登載

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス
昭和十八年二月九日

海軍大臣

表中第四十二海軍軍用郵便所職員ノ欄所員「専任八人判任」ヲ「専任十六人判任」ニ改ム
「専任八人判任」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ (昭和十七年十月六日本閣)

官房需第三三號

當分ノ間見習尉官採用豫定者、海軍生徒採用豫定者及採用豫定ノ海軍豫備員候補者ノ入校 (團、隊) ニ際シ必要ニ依リ入校期日前ニ參着セシメタル場合ハ校内ニ起臥セシメ糧食ヲ給スルコトヲ得

昭和十八年二月九日

○辭 令

海軍大臣

大阪監理官ヲ命ス

海軍艦政本部造船造兵監督
會計官兼海軍艦政本部造船
監督會計官海軍主計大佐

河 勉 三

(各通)

東京監理官ヲ命ス

笹原 宮次郎

富山監理官ヲ命ス

岡田 米三郎

福岡監理官兼長崎監理官ヲ命ス

隅野 四郎

海軍艦政本部造船監督官兼
造船監督官海軍航空本部造船
兵監督官海軍主計大佐

倉永 辰熊

東京監理官ヲ命ス

居 倉 直記

海軍公報 (部内限) 第四千三百十二號

昭和十八年二月九日

二三二

海軍航空本部造兵監督會計官兼海軍航空本部造船造兵監督會計官海軍主計大佐	東	壽
海軍艦政本部造船造兵監督會計官兼海軍航空本部造船造兵監督會計官海軍主計中佐	阿部	晃音
名古屋監理官ヲ命ス	幸村	忠一
同	神上園	治平
東京監理官ヲ命ス <small>吳海軍工廠電氣部部員兼電氣實驗部部員製鋼部部員製鋼實驗部部員會計部部員海軍主計少佐</small>	池田	淳郎
廣島監理官ヲ命ス <small>坂須賀海軍工廠造船部部員兼會計部部員海軍主計少佐</small>	吉田	省吾
浦賀監理官ヲ命ス <small>海軍艦政本部出仕兼海軍航空本部出仕海軍主計大尉</small>	榎本	邦一
東京監査官附ヲ免シ東京監査官ヲ命ス	村上	義令
玉野監査官附兼神戸監査官附ヲ免シ玉野監査官兼神戸監査官ヲ命ス	原	直久
(各通)	同	同
東京監査官附ヲ免シ東京監査官ヲ命ス	同	同
室蘭監査官附ヲ免シ室蘭監査官ヲ命ス	渡邊	善次郎
同	中村	嘉人
東京監査官附ヲ免シ東京監査官ヲ命ス <small>海軍航空本部出仕兼海軍艦政本部出仕海軍主計大尉</small>	中山	雅生
名古屋監査官附ヲ免シ名古屋監査官ヲ命ス <small>海軍艦政本部出仕兼海軍航空本部出仕海軍主計大尉</small>	遠藤	太空
東京監査官附ヲ免シ東京監査官ヲ命ス	鈴木	美英
浦賀監査官附兼東京監査官附ヲ免シ東京監査官ヲ命ス	小川	正造
同	五十嵐	國男
東京監査官附ヲ免シ東京監査官ヲ命ス	石川	三郎
神戸監査官附ヲ免シ神戸監査官ヲ命ス	柏瀬	文弥
大阪監査官附ヲ免シ大阪監査官ヲ命ス	菊田	好男
(各通)	同	同
東京監査官附ヲ免シ東京監査官ヲ命ス	岡田	功

八幡監査官附ヲ免シ八幡監査官ヲ命ス	同	高橋 格一
富山監査官附ヲ免シ富山監査官ヲ命ス	同	江渡 武太郎
(各通)	同	清水 一夫
東京監査官附ヲ免シ東京監査官ヲ命ス	同	河合 良一
東京監査官附ヲ免シ浦賀監査官附ヲ命ス	同	佐藤 欽也
東京監査官附ヲ免シ室蘭監査官ヲ命ス(以上 ^三 海軍省)	海軍主計中尉	町村 鐵雄
(各通)	海軍大佐	橋本 宙二
	海軍中佐	井上 憲一
	同	平本 道隆
	同	井浦 祥二郎
	同	井上 梅二郎
	同	岩島 二三
	同	末永 直二
	同	泉 雅爾
防備關係調査研究委員會第一分科會委員ヲ命ス		
(各通)	海軍大佐	佐藤 佐
	同	橋本 宙二
	海軍中佐	小倉 藤三郎
	同	志和 彪
	同	横手 克巳
	海軍少佐	千早 正隆
防備關係調査研究委員會第二分科會委員ヲ命ス	海軍中佐	櫛引 誠雄
防備關係調査研究委員會第三分科會委員ヲ命ス(以上 ^三 海軍省)	海軍主計大尉	濱中 成一
(各通)	同	小坂 徳三郎
	同	淺田 平八郎
	同	大河原 正太郎
第六課勤務ヲ命ス(以上 ^三 海軍省經理局)	海軍主計兵曹長	佐々木 伊勢松
第八通信隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス	海軍主計兵曹長	鈴木 意次
右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上 ^三 支用官海軍省經理局長)		

海軍公報(部内限) 第四千三百十二號 昭和十八年二月九日

海軍主計中尉 山田 敬藏
第二十八設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ
爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(三〇四同)

海軍大佐 岡田 有作(艦 本)

同 松尾 義保(神 監)

海軍中佐 三戸 文章(吳 廠)

(各通) 海軍大尉 濱住 芳久(呂〇器潜)

同 岡嶋 阜(同)

海軍中尉 花咲 茂市(同)

呂號第百四潜水艦審議委員ヲ命ス(新海軍艦政本部)

○ 雜 款

○郵便物發送先

宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザル
コト

一 第五五二航空隊 木更津航空基地氣付

「ツ貳〇四」

一 卯月 横須賀局氣付(第十軍用郵便
所經由)卯月

一 秋風、羽風 横須賀局氣付(第三十六軍用
郵便所經由)秋風、羽風

○本日普通公報發行セズ

海軍公報 (部内限) 第四千三百十三號

海軍大臣官房

昭和十八年二月十日(水)

○令 達

官房備機密第五〇號

大東亞戰爭中狀況ニ應ジ日本人ニ非ザル者ト雖モ善良ナル者ハ特設運送船又ハ特設艦船ニ非ザル徵備船舶ノ臨時傭人トシテ之ヲ使用スルコトヲ得但シ軍屬ノ取扱ヲ爲サザルモノトス

昭和十八年二月十日

海軍大臣

内令撰
要登載

官房備機密第五八號

昭和十六年官房機密第一二五七七號ハ昭和十八年二月二十八日限り之ヲ廢止ス

昭和十八年二月十日

海軍大臣

(參照) 昭和十六年官房機密第一二五七七號ハ海軍軍用電信所設障ノ件ナリ

官房醫第一四號

左ノ各號ニ依リ海軍軍醫學校ニ於テ防疫班タル者ノ講習ヲ施行ス

昭和十八年二月十日

海軍大臣

一 講習課目

南東方面ニ於ケル「マラリア」及「デング熱」防遏上ノ必要ト認ムル課目特ニ豫防上有效ナル現地清掃作業

二 時 日

二月十五日ヨリ五日間

三 講習指導官及輔佐官

(イ) 指導官 海軍軍醫學校長

(ロ) 輔佐官 海軍軍醫學校教官 適宜
海軍省醫務局局員 適宜

四 講習員

別ニ指定ス

海軍公報 (部内限) 第四千三百十三號 昭和十八年二月十日

五 報告
指導官ハ實施細目ヲ定メ報告スルモノトス

六 旅費
講習員ノ旅費ハ昭和十八年官房經第七號ニ依リ請求
ヲ俟テ別途配付ス

○ 通 牒

海軍省 則登載

官房艦第七一號
左ノ各號ニ對スル臨時海軍規格ヲ別紙ノ通定ム
別紙ハ海軍艦政本部ニ於テ所要ノ向ニ之ヲ配付ス
昭和十八年二月九日

海軍 次官

- 一 罐水磷酸定量用試藥
- 二 岩綿板
- 三 岩綿保溫紐
- 四 岩綿保溫板
- 五 岩綿壁材
- 六 岩綿保溫筒
- 七 岩綿纖維
- 八 硝子糸

- 九 硝子綿布
- 十 保溫材熱傳導率測定方法
- 十一 淨鹼劑用ソーダ灰
- 十二 淨鹼劑用苛性ソーダ
- 十三 淨鹼劑用第三磷酸ソーダ
- 十四 復水器用アルブラック管
- 十五 復水器用アルミプラスチック管

海軍省 則登載

官房備機密第七號ノ八

昭和十八年二月十日

海軍省 副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十七年官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵
便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄所在地區別符表(其ノ一) 中末尾ニ「占守」
ツ壹 貳參「色丹」ツ壹貳四「ヲ加」
附錄部隊區別符表(其ノ一) 中末尾ニ「見張所」
ツ貳 參七「ヲ加」
同(其ノ二) 中末尾ニ「第二回航班」
テ參四「第十七

同「テ參五」ヲ加フ
 同(其ノ三)中末尾ニ「第一回航班 イ五五」「第九同
 小五六」「第十同 イ五七」「第十一同 イ五八」「第十
 二同 イ五九」「第十五同 イ六〇」「第十六同 イ六
 壹」ヲ加フ
 同(其ノ四)中末尾ニ「第三回航班 七七參」「第四同
 七七四」「第五同 七七五」「第十四同 七七六」ヲ加
 兵備三機密第二二號
 昭和十八年二月十日
 海軍省兵備局長
 關係廳長殿
 外人ヲ船員トシテ使用ノ件申進
 首題ニ關シ今般官房機密第五〇號ノ通示達成候處
 一般船員不足ノ國內現情ニ鑑ミ今後ノ浮揚戰利船ノ定
 員及徵備船船員ノ缺員補充ニ成ルベク之ヲ使用ノコ
 トニ取計相成度
 昭和十八年機密第一號ノ五〇
 海軍省人事局長
 要令提
 要登載

海軍公報(部内限)第四千三百十三號 昭和十八年二月十日

各鎮守府參謀長殿
 新設海軍練習航空隊開隊前飛行練習生收
 容ノ場合人事取扱ニ關スル件申進
 新設海軍練習航空隊ニ於テ教育實施豫定ノ飛行練習生
 ヲ教育ノ必要上已ムヲ得ズ開隊前ニ收容スル場合ノ人
 事取扱ハ左記ニ依リ處理スルコトニ定メラレ候
 記
 一 前廳ノ正式退應期日ハ新設開隊ノ日附トシ人事上
 一切ノ手續ヲ執リ出發セシムルモノトス但シ出發ヨ
 リ正式退應期日迄ノ間ハ實習ノ爲旅行ヲ命ズルモノ
 トス
 二 海軍練習航空隊設立準備委員長(又ハ首席設立準
 備委員)ハ開隊前ニ飛行練習生ヲ收容シタルトキハ
 人事ニ關スル事項ハ之ヲ其ノ所轄長ニ通知スルモノ
 トス但シ急速ヲ要スルモノハ通知ニ先チ機宜之ヲ處
 理スルコトヲ得
 ○ 辭 令
 內務事務官兼內務書記官 郡山 義夫
 南方政務部兼務ヲ免ス(前海軍省)

海軍主計中尉 龜徳 正之
第二課勤務ヲ命ス(海軍省軍務局)

海軍少佐 平田 春生
第一課勤務ヲ命ス(海軍省人事局)

海軍主計中佐 森 寛

馬來方面ニ於ケル準備購入材料物品費支拂ノ爲臨時
資金前渡官吏ヲ命ス

同 井上 鐵也

ボルネオ島バンジエルマシ方面ニ於ケル準備購入
材料物品費支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス(以上
ニハ支出官 海軍省經理局長)

○ 雜 款

○郵便物發送先
宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザル
コト、公用郵便物ハ總テ急送扱ノコト

一 第九五八航空隊 横須賀局氣付(第十二軍用郵
便所經由)
「ウ壹〇五ウ貳〇五」

一 第二十五特別根據地隊
吳局氣付(第二十九軍用郵便
所經由)「セ貳參七六六」

一 第二十五通信隊

吳局氣付(第二十九軍用郵便
所經由)「セ貳參七六七」
吳局氣付(第二十九軍用郵便
所經由)
一 若鷹、金鈴丸、第
九、第十掃海特務
艇 若鷹、金鈴丸、第九、第十
掃海特務艇

○公用使便利ノ件

本更津海軍航空基地所在左記各部隊ハ自今毎日(日曜、
公暇日ヲ除ク)横須賀及東京所在各應間ニ往復スル文
書交換ノ爲聯合公用使ヲ横須賀鎮守府文書交換所ニ派
遣スベキニ付同部隊宛書類ハ特ニ己ムヲ得ザルモノノ
外本公用使便ヲ利用相成度

記

第二十四航空戰隊司令部(ウ五二)

第七五二海軍航空隊(ウ七〇)

第五五二海軍航空隊(ウ二〇四)

第七〇二海軍航空隊(ウ一一二)

第一航空基地隊(ウ一六三)

(第二十四航空戰隊司令部)

○假入隊

臺灣及戰地方面ヘノ轉勤者ヲ當隊ニ假入隊セシメラル
ル向ハ豫メ航空機便等調査確定ノ上假入隊セシメラレ
度 (鹿屋海軍航空隊)

○事務開始
第三十設營隊ハ二月五日東京市芝區海岸通芝浦海軍建
築支部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所移轉
宮崎海軍航空隊(假稱)設立準備事務所ヲ一月十日大
分海軍航空隊内ニ移轉セリ

○訂正 (済)
一月二十三日附公報(部内限)通牒欄經給第一〇號第
三號中「臨時軍事費、營繕費、作場費」ヲ「各基本給
科目」ニ訂正ス

海軍公報(部内限)第四千三百十三號 昭和十八年二月十日

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十八年二月十日(水)
海軍大臣官房

○通牒

艦本機密第一 號ノ一六二六

昭和十八年二月八日

海軍艦政本部長

關係各廳長殿

九三式 四號防毒面用吸收罐別罐使用法ニ關
スル件照會

目下艦船用トシテ供給手配中ノ首題防毒面用吸收罐別
罐ハ其ノ性能及使用方法ニ於テ九三式ニ號 防毒面用吸收罐
別罐ト其ノ趣ヲ異ニセル點アルニ付之ガ使用上特ニ左
記事項ヲ關係者ニ示達方取計相成度

記

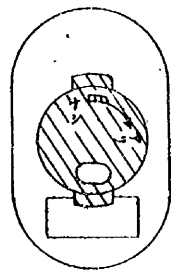
- 一 九三式 四號防毒面用吸收罐別罐(以下單ニ別罐ト稱
ス)ハ一酸化炭素防禦ヲ目的トス
- 二 別罐ハ常ニ吸收罐本罐(以下單ニ本罐ト稱ス)ノ
下端ニ接著シ置クヲ立前トス
- 三 別罐ヲ本罐ニ接著スルニハ本罐下端ノ突起ヲ別罐

海軍公報 (部内限) 號外

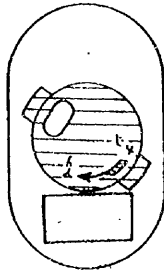
上端ノ溝ノ切込ニ嵌合シタル後九〇度廻轉シテ氣密
ニ固定ス

四 切換「コック」ハ別罐ヲ使用スル場合ノミ矢符
「アリ」ノ方向ニ確實ニ極度迄旋回シ(乙圖)他ノ場
合ニハ貯藏中タルト使用中タルトヲ問ハズ常ニ「ナ
シ」ノ方向ニ確實ニ極度迄旋回シ置クベシ(甲圖)

甲



乙



- 五 別罐ノ壽命ハ瓦斯ノ有無ニ拘ラズ切換「コック」ガ「アリ」(乙圖)ノ位置ニ在ル時間ノ總計ニ依リ定メラレ大約二乃至三時間ニシテ其ノ効ヲ失シ其ノ度ハ別罐重量ノ増加ニ依リ判定セラレ
- 別罐重量別罐ニ記入シアル「許容重量」以上トナリタル場合ハ速ニ修理請求ヲナスベシ
- 六 防毒面ヲ格納スル場合ハ本罐ノ口栓及別罐ノ底栓ヲ必ズ密閉シ置クベシ
- 七 別罐取扱ニ際シテハ切換「コック」ヲ衝擊等ニ因リ損傷セザルコト及其ノ氣密ニ關シ常ニ注意ヲ拂フベシ

海軍公報 (部内限) 第四千三百十四號

昭和十八年二月十二日 (金)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一四四號

大東亞戰爭中海軍禮砲令第三十條ノ規定ニ依ル禮砲ハ
特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ行ハズ

昭和十八年二月八日

海 軍 大 臣

海軍諸例
則登載

(参照) 諸例別卷四、二六六頁

官房第一八〇號

當分ノ間特殊使役者ノ給與ニ關シ左ノ通定ム

昭和十八年二月十二日

海 軍 大 臣

一 本令ニ於テ特殊使役者トハ戰地ニ在ル海軍ノ部隊
及其ノ他ノ各部ニ於テ使役スル者ニシテ本邦人ニ非
ザルモノヲ謂フ
特殊使役者ハ給與上之ヲ左ノ四種ニ區分ス

(イ)

囑託者(無待遇ノ者) 雇員ニ準ジ報酬ノミヲ支
給スルコトヲ得
(昭和十七年官房
第三〇七一號)

(ロ)

臨時傭人
海軍徵傭船舶船員給與規
則甲船員中傭人ニ準ジ給
料、航海手當、糧食(食
料ニ換給スルコトヲ得)
及遭難服裝手當ヲ支給シ
被服物品ヲ貸與ス
傭人ニ準ジ給料(日給)
ノミヲ支給ス
(昭和十八年官房
密機第五〇號)

(ハ)

傭人ノ代員
所屬長官ノ定ムル所ニ依
リ基本賃錢ノミヲ支給ス
但シ殘業者及特殊ノ作業
ニ従事スル者(昭和十七
年官房第一七一六號ニ依
ラザル普通人夫ヲ除ク)
(大正十四年官房
第四八〇號
昭和十七年官房
第三〇七一號)

(ニ)

常傭人夫及普通人夫

海軍公報 (部内限) 第四千三百十四號 昭和十八年二月十二日

- 一 對シ廳長必要アリト認メタルトキハ所屬長官ノ認許ヲ受ケ基本賃錢ノ十分ノ十以內ニ於テ増服業賃錢又ハ特殊事業加給ヲ支給スルコトヲ得
- 二 特殊使役者ニシテ食事ヲ自辨スルコト能ハザルモノニ對シテハ所屬長官ノ認許ヲ受ケ糧食ヲ支給スルコトヲ得
- 三 特殊使役者ニハ廳長必要アリト認メタル場合ニ限リ宿舍ヲ貸與スルコトヲ得
- 四 特殊使役者公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ治療費ヲ官費支辨トス
- 五 特殊使役者公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ昭和十八年官房經第一〇〇號ヲ適用ス
- 六 特殊使役者公務ニ依リ旅行ヲ命ゼラレタルトキハ昭和十七年官房第九七二號其ノ他別ニ定ムル所ノ範圍內ニ於テ實費旅費ヲ支給ス
- 七 特殊使役者給與掌理者ト分離行動ヲ爲ス場合ハ必要ニ應ジ報酬、給料及賃錢(基本賃錢ノミ)ヲ三十

日分以內ニ於テ前金拂ヲ爲スコトヲ得
 八 廳長ハ本令ニ定ムル給與及其ノ取扱ニ關シ施行細目ヲ定ムルコトヲ得

(參照) 大正十四年官房第四八〇號ハ支那ニ在ル海軍集會所及替備艦船ニ於テ備入ノ代員ニ支那人使役ノ件ナリ
 昭和十七年官房第三〇七一號ハ南西方面占領地ニ於ケル海軍各部囑託又ハ備入ノ代員トシテ現地民ヲ囑託ニ採用シ又ハ使役スルコトヲ得ルノ件ナリ
 (註) 常備入夫ニ付テハ昭和十七年官房第七三二一號參照

○ 通 牒

艦本機密第一號ノ一七七九
 昭和十八年二月十二日

内 令 提
 要 登 載

海軍 艦政 本 部 長

關係各海軍工廠長
 各海軍軍需部長 殿

砲用時計式各種時限信管取扱ニ關スル件
 通牒

首題信管ハ自今戰時中起動發條ヲ捲回セル儘供給スベ
 追テ起動發條ヲ捲回セル信管ハ其ノ格納筐上面ニ捲
 回濟ト朱書シ置クモノトス

艦本機密第一號ノ一七八〇

昭和十八年二月十二日

海軍艦政本部 事務部長

内令 提
要 登 載

關係廳長殿

砲用時計式各種時限信管取扱ニ關スル件

照會

首題信管ハ二月十二日艦本機密第一號ノ一七七九ヲ以テ戰時中起動發條ヲ捲回ノ儘供給ノコトニ通牒セラレ候處發條捲回濟信管ニ對シ再ビ同發條ヲ捲回スル場合ハ發條切斷シ信管ノ性能ヲ失スルニ至ルヲ以テ此ノ如キ錯誤ナキ様關係ノ向ヘ示達方取計相成度

○ 辭 令

地質調査所技師 堀 純 郎

第一南遣艦隊司令部附ヲ命ス(海軍省)

星野 徳一

自今徵用中年額千六百八拾圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス(二同)

海軍大佐 富岡 定俊(大 淀)

同 佐藤 佐(艦 本)

同 海軍主計大尉 太田 俊輔(同)

海軍公報(部内限) 第四千三百十四號

昭和十八年二月十二日

一四三

(各通)

- 同 橋本 宙二(同)
- 同 齋藤 富士郎(大 淀)
- 同 室田 勇次郎(艦 本)
- 同 南 六右衛門(軍 務)
- 同 金子 謙二(大 淀)
- 同 三木 榮助(軍 務)
- 同 上出 俊二(航 本)
- 同 岩島 二三(艦 本)
- 同 富永 章(吳 鎮)
- 同 佐藤 重吉(艦 本)
- 同 末永 直二(同)
- 同 岩城 繁(軍 令)
- 同 坂上 五郎(艦 本)
- 同 井内 四郎(吳 鎮)
- 同 川又 政信(艦 本)
- 同 淺井 秋生(大 淀)
- 同 村山 利光(同)
- 同 渡邊 信吉(同)
- 同 中島 武(同)
- 同 海軍主計大尉 太田 俊輔(同)
- 同 海軍技術中佐 松本 喜太郎(艦 本)

海軍技術少佐 富田 範郎(吳 廠)
軍艦大淀審議委員ヲ命ス

海軍大佐 小山 敏明(艦 本)

海軍技術大尉 伊東 健二(艦本監)

(各通) 同 中 澤 力(同)

海軍豫備少佐 矢野 昌三郎(彗驅潜)

海軍技師 山縣 文次郎(艦本監)

第三十五號驅潜艇審議委員ヲ命ス(以上 海軍艦政本部)

○ 雜 款

○ 正誤

本月九日附公報(部内限) 辭令欄中主計中尉町村鐵雄ノ辭令「東京監査官附ヲ免シ室蘭監査官ヲ命ス」ハ「東京監査官附ヲ免シ室蘭監査官附ヲ命ス」ノ誤

海軍公報 (部内限) 第四千三百十五號

昭和十八年二月十三日(土)
海軍大臣官房

○通牒

軍務一機密第一一二號

昭和十八年二月十二日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

艦船應急用器材定數標準中一部改正ノ件

通知

昭和十六年四月二十一日軍務一機密第二七九號申進
(四月二十二日海軍公報(部内限)参照) 首題標準別表
第一中左記ノ通改メラレ候

記

備考中左ヲ削除シ「九」ヲ「八」ニ改ム

八、航空母艦ニ對シテハ飛行甲板補修用トシテ二萬

五千噸以上十一立方米、二萬五千噸未満十立方米

ノ角(圓)材ヲ供給ス

○辭令

海軍公報(部内限) 第四千三百十五號 昭和十八年二月十三日

海軍武功調査委員ヲ命ス
海軍少佐 赤堀 次郎

支那事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス

海軍學生銓衡委員ヲ命ス

海軍武功調査委員ヲ命ス
海軍少佐 平田 春生

支那事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス(以上三記海軍省)

○雜款

○永久服役
左記ノ者ハ二月十日海軍武官服役令第八條ノ規定ニ依
リ現役ニ服センメラル

記

海軍軍醫少佐 板津 清明

同 渡邊 井

同 片山 循之

同 佐々木 輝紀

同 山路 正己

(各通)																								
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	海軍軍醫大尉													
大	瀧	菊	山	松	石	大	土	津	小	秦	酒	柴	佐	井	中	岩	武	瀬	西	元	小	高	原	安
倉	川	池	田	島	塚	庭	岐	田	屋	親	非	谷	藤	上	村	井	藤	島	海	一	切	橋	憲	問
正	一	一	萬	真	一	正	正	廣	經	文	利	三	孝	恒	一	滿	晃	米	正	正	一	久	次	正
郎	巖	郎	郎	平	貫	正	正	信	嘉	明	三	治	三	一	一	一	治	治	治	治	治	治	治	治
○本日普通公報發行セズ																								
同	海軍藥劑大尉		同	同	同	海軍軍醫中尉		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
富	水	吉	奥	坪	大	奥	小	中	井	會	松	秋	佐	太	中	三	藤	早	石	滋	杉	得		
永	田	原	村	井	島	村	村	上	上	田	本	岡	岡	岡	岡	岡	岡	川	山	賀	原	丸		
大	弘	道	日出	常	東	正	榮	一	武	俊	義	收	學	豐	男	一	五	五	秀	正	芳			
六	三	三	生	晴	治	次	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	彌	郎	夫	夫	夫	夫		

海軍公報

(部内限) 第四千三百十六號

海軍大臣官房

昭和十八年二月十五日(月)

○ 令 達

官房經第一六五號

昭和十七年官房第三一一一號中恤兵金一〇萬圓ヲ一七萬圓ニ増額シ備考ニ左記ノ通追加ス

昭和十八年二月八日

海 軍 大 臣

記

- 馬公海軍經理部 一萬圓
- 第四海軍經理部 一萬圓
- 第八海軍經理部 三萬圓
- 第一百海軍經理部 五千圓
- 第一百二海軍經理部 一萬圓
- 第一百三海軍經理部 五千圓

(參照) 昭和十七年官房第三一二號ハ恤兵金ヲ以テ一時立替資金ニ充當セシムル件ナリ(昭和十七年六月一日(部内限)公報)

官房艦機密第二號ノ一四

昭和十八年二月八日

海 軍 大 臣

各 鎮 守 府 司 令 長 官
大湊、馬公、鎮海警備府司令長官 殿

兵器簿ノ件通達

各航空隊兵器簿衛術長主管之部中左記ノ通改正ス

記

區分	類 別	品 名	數 量	摘 要
削除	電氣通信器	携帶電話器 乾電池共	二一 型型	數量全部削 除(通信長主 管ニ移管)

官房軍第一五七號

海軍省教育局部外教育班規程中左ノ通改正ス

昭和十八年二月十三日

海 軍 大 臣

第二條第一號中「海軍關係員」ノ下ニ「及航空關係員」

海軍公報(部内限) 第四千三百十六號

昭和十八年二月十五日

一四七

ヲ加フ

(昭和十七年七月十四日海軍公報(部内限) 本欄参照)

○ 辭 令

(各通)

- 松田 熊義
- 松本 徳藏
- 伊藤 鷹松
- 中村 樹生
- 西東 健三
- 片岡 守喜

徵用中部内限奏任官待遇トス(昭和十七年海軍省)

清水美之作

徵用中部内限奏任官待遇トス(昭和十七年海軍省)

海軍主計兵曹長 松田 謙一

第百二海軍航空廠マニラ分工場及ダバオ分工場ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(三三)支田官 海軍省經理局長)

臺灣總督府事務官 塩見 俊二

セラム民政部アムボン事務所ニ於ケル經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(三三)同)

○ 雜 款

○郵便物發送先宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザルコト

- 一 國光丸(第五十七號 機關長、軍醫、第二長、主計長) 横須賀局氣付(第十軍用郵便所經由)
- 一 拓南丸、第十五昭南丸 國光丸、第二拓南丸、第十五昭南丸
- 一 第十拓南丸、第八昭南丸 横須賀局氣付(第十軍用郵便所經由)「ツ六七」氣付
- 一 第二十六設營隊 横須賀局氣付
- 一 第二十八設營隊 横須賀局氣付
- 一 第三十設營隊 横須賀局氣付
- 一 第二艦隊司令部愛宕、夕霧、山陽丸 横須賀局氣付(第十軍用郵便所經由)
- 一 佐領第七特陸 愛宕、夕霧、山陽丸 館山海軍砲術學校内

○本日普通公報發行セス

海軍公報

(部内限) 第四千三百十七號

昭和十八年二月十六日(火)

海軍大臣官房

○令 達

官房人機密第五六號

昭和十三年勅令第五百六十六號第一項ノ規定ニ依リ海軍所屬ノ技師又ハ技手ノ職ニ在リタル者ヨリ昨年十一月一日附任用セラレタル海軍技術科士官ノ任用官等ニ於ケル實役停年ニ關シテハ海軍文官タリシ在職期間ヲ昭和十四年官房機密第四〇三八號ノ例ニ依リ通算ス但シ昭和二年勅令第三百八十一號ニ依ル現役期間特別ノ者ヨリ任用セラレタル者ノ實役停年ハ其ノ任用官等ト同官等以上ノ在職期間ヲ全期間通算スルモノトス
昭和十八年二月十五日

海 軍 大 臣

○辭 令

内務事務官兼内務書記官 郡山 義夫
海南警備府附ヲ免ス(十九海軍省)

第二課勤務ヲ命ス(十九海軍省兵備局)

海軍技師 十河 浩

第四課勤務ヲ命ス(二十同)

海軍軍醫中佐 宇佐美 正夫

○雜 款

○司令潜水艦變更

第十一潜水隊司令ハ十二月二十四日司令潜水艦ヲ伊號第七十六潜水艦ニ變更セリ

○直通電話開通

客年十二月十二日ヨリ左記海軍専用電話開通セリ
大阪警備府―名古屋在勤海軍武官府

○事務所設置

伊號第三十九潜水艦艦裝具事務所ヲ二月六日佐世保海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務開始

第二海軍補充部ハ一月二十一日「ラバウル」ニ於テ事

務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第二防衛班残務整理事務所ヲ一月十五日撤去セリ

追テ事務連絡ノ必要アル場合ハ左ニ依リ發送相成度

吳局氣付 セ壹〇セ壹壹セ壹參

第三十設營隊事務所ハ本月十日之ヲ撤去セリ

○本日普通公報發行セズ

海軍公報

(部内限) 第四千三百十八號

昭和十八年二月十七日(水)

海軍大臣官房

○令 達

官房備第一四號ノ三

昭和十七年官房第七八九四號ニ依ル第二十九海軍軍用郵便所ハ昭和十八年二月十日ヨリ事務ヲ開始ス

昭和十八年二月九日

海軍大臣

(参照) 一月二十一日本欄

○通 牒

経豫第三號ノ二六

昭和十八年二月十日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行バタビヤ代理店改稱ノ件通知

在瓜哇日本銀行バタビヤ代理店ヲ日本銀行ジヤカルタ

代理店ト改稱昭和十八年二月十日ヨリ實施ノコトト相

成候

軍需機密第一〇五號

昭和十八年二月十六日

海軍省 軍需局長

關係各廳長殿

運川長主管艦營需品「磨液」ニ關スル件申進

首題物品ハ「ゴム」ニ有害ナルコト立證セラレ候ニ付

自今「ゴム」附近ノ金物磨キニハ一切之ヲ使用セザル

コトニ取計相成度

追テ在庫品ヲ限リ陸上部隊ニノミ供給ノコトトシ共

後ハ供給停止ノコトト了知相成度

○辭 令

安達 剛正

海軍航空本部ニ於ケル技術業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任待遇トス

(四海軍省)

海軍公報(部内限) 第四千三百十八號

昭和十八年二月十七日

一五一

野崎 治夫
南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏
任官待遇トス(三三同)

(各通)

海軍中佐 岡村 於菟彦
海軍主計中佐 辻 英祐

海軍勤勞者中央表彰審査委員會委員兼幹事ヲ命ス
(三五同)

○ 雜 款

○ 試驗問題發送

第四期館山海軍砲術學校高等科砲術練習生採用試驗
問題

右二月四日左記ノ通發送済、未着及別ニ必要ノ向ハ館
山海軍砲術學校ニ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送セリ
- 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部及各警備府宛送
付(聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ
爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ若干ノ餘
裕ヲ含ム)

(館山海軍砲術學校)

一 第九期高等科機雷術水中測の練習生採用試驗問題

二月九日發送済
二月十三期高等科機雷術機雷練習生採用試驗問題
二月十二日發送済
右ハ左記ニ依リ發送、未着及別ニ必要ノ向ハ最寄海軍
人事部、警備府又ハ本校へ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ所轄ニハ直送
- 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部宛送付
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲
聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ各人事部宛
單獨試驗用問題若干送付シ置ケリ

(海軍機雷學校)

第七十四期高等科水雷術練習生採用試驗問題

右二月十一日左記ノ通發送済、未着及別ニ必要ノ向ハ
最寄海軍人事部、警備府又ハ本校へ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ所轄ニハ直送
- 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部、各警備府宛送
付
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲
聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記宛單獨
試驗用問題若干送付シ置ケリ

(海軍水雷學校)

海軍公報 (部内限) 第四千三百十九號

海軍大臣官房

昭和十八年二月十八日(木)

○ 令 達

官房機密第六三號
昭和十六年官房機密第一二六三九號中左ノ通改正ス

昭和十八年二月十六日

海 軍 大 臣

第一項第一號中「艦船」ノ下ニ「、特設海上護衛隊」ヲ加フ

附 則

本令ハ昭和十七年十二月十一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 昭和十六年官房第一二六三九號ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者ノ給與ニ關スル件ナリ

官房經第一九九號

大東亞戰爭ニ際シ外戰部隊ニ編入又ハ附屬セラレタル艦船、航空隊及特設海上護衛隊ニシテ一時的ニ帝國領土(南島島、新南群島及南洋群島ヲ除ク)内及同沿岸

海軍公報(部内限) 第四千三百十九號 昭和十八年二月十八日

ニ在ル場合該艦船部隊ニ赴任又ハ轉勤スル軍人軍屬ニハ海軍戰時給與規則第九條ヲ適用ス
本令ハ昭和十七年十二月十一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

昭和十八年二月十六日

海 軍 大 臣

官房艦第八一號

昭和十七年官房第五八一三號中左ノ通改正ス
昭和十八年二月十六日

海 軍 大 臣

書式第一號備考中第二號ヲ第三號トシ以下順次繰下ゲ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

- 2 部外ヨリノ受託工事(受託造修費支辨工事)ハ工作應ニ於ケル支拂額ト特設應支拂額トヲ各別ニ計上スルモノトス

(參照) 官房第五八一三號ハ工作應(特設工作應ヲ含ム)、特設海軍工作部、特設海軍航空隊、特設特別工作部、警備府附屬ノ

海軍公報(部内限) 第四千三百十九號 昭和十八年二月十八日

一五四

修理工場、艦船又は兵器ノ修理ヲ爲ス特設部隊等ニ於テ工
亦ニ要スル契約、通常物品及工事費ノ整理ニ關スル件ナリ
(昭和十七年海軍公報(部内限) 第四二〇七號)

官房經機密第六八號

昭和十六年官房機密第一一四三七號中左ノ通改正ス

昭和十八年二月十七日

海軍大臣

第一號供給擔任區分中特設設警隊名ノ欄「第十二、第
十九、第二十設警隊」ヲ「第十二、第十九、第二十、第
二十八設警隊」ニ、「第十三、第十四、第十六、第二十
七設警隊」ヲ「第十三、第十四、第十六、第十七、第
二十四、第二十六設警隊」ニ改ム

(参照) 昭和十六年官房機密第一一四三七號ハ特設設警隊ニ要スル
機械器具及材料ノ供給及整理ニ關スル件ナリ(機密會計法
規類集三二二頁)

官房艦機密第五號ノ三三

昭和十八年二月十七日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
大湊鎮海、馬公警備府司令長官
海軍兵學校長
兵器簿ノ件通達

各艦部隊學校兵器簿機關長主管ノ部中左記ノ通改正ス

記

改正品名	舊品名	記	事
寒暖計 電池用	寒暖計 一號		
比重計 一型	比重計 各種		
		比重計二型及蓄電池 ノヲ除ク	

○通牒

官房備機密第七號ノ九

昭和十八年二月十七日

海軍省副官

内令提
要登載

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十七年官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵
便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中末尾ニ「第三十設警隊
ウ貳參八」「佐鎮第七特陸 ウ貳參九」「第三十二防空
隊 ウ貳四〇」ヲ加フ

<p>經物第二〇號</p>	<p>昭和十八年二月十七日</p>	<p>海軍省經理局長</p>	<p>關係各廳長殿</p>	<p>前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件 通知</p>	<p>昭和十六年九月經物第一六三號別冊首題承認者名簿中 左記ノ者今般新ニ海軍購買名簿ニ登錄セラレタルニ付 前記承認者名簿ヨリ削除致候</p>																														
<p>合名會社田中スホーク 製作所</p>	<p>經物第二二號</p>	<p>昭和十八年二月十七日</p>	<p>海軍省經理局長</p>	<p>關係各廳長殿 前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件 通知</p>	<p>昭和十六年九月經物第一六三號別冊首題承認者名簿中 左記ノ通改正致候</p>																														
<p>大阪市泉北郡濱寺町大字下石 津五八六</p>	<p>一 合資會社鈴木機械製作所ノ住所「東京市澁橋區澁 橋六九九」ヲ「東京市江戸川區小松川四丁目一六三 一番地」ニ改ム 一 日本木材統制株式會社 削除</p>	<p>經物第二三號</p>	<p>昭和十八年二月十七日</p>	<p>海軍省經理局長</p>	<p>關係各廳長殿 前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件 通知</p>																														
<p>會社名</p>	<p>所在地</p>	<p>今泉利秋 (今泉工作所)</p>	<p>安治川亞鉛鐵工業株式會社</p>	<p>大阪市湊區石田町二ノ三七ノ三</p>	<p>東和機械工業株式會社</p>	<p>株式會社關西スピンドル製作所</p>	<p>大阪市西淀川區御幣島町五</p>	<p>日本高度鋼株式會社</p>	<p>株式會社日本精密工具製作所</p>	<p>東京市神田區鍛冶町一ノ二</p>	<p>今泉利秋 (今泉工作所)</p>	<p>東和機械工業株式會社</p>	<p>尼崎市濱字一ノ七</p>	<p>日本高度鋼株式會社</p>	<p>株式會社日本精密工具製作所</p>	<p>東京市神田區鍛冶町一ノ二</p>	<p>今泉利秋 (今泉工作所)</p>	<p>株式會社關西スピンドル製作所</p>	<p>大阪市西淀川區御幣島町五</p>	<p>東和機械工業株式會社</p>	<p>株式會社日本精密工具製作所</p>	<p>東京市神田區鍛冶町一ノ二</p>	<p>今泉利秋 (今泉工作所)</p>	<p>株式會社關西スピンドル製作所</p>	<p>大阪市西淀川區御幣島町五</p>	<p>東和機械工業株式會社</p>	<p>株式會社日本精密工具製作所</p>	<p>東京市神田區鍛冶町一ノ二</p>	<p>今泉利秋 (今泉工作所)</p>	<p>株式會社關西スピンドル製作所</p>	<p>大阪市西淀川區御幣島町五</p>	<p>東和機械工業株式會社</p>	<p>株式會社日本精密工具製作所</p>	<p>東京市神田區鍛冶町一ノ二</p>	<p>今泉利秋 (今泉工作所)</p>

海軍公報(部内限) 第四千三百十九號 昭和十八年二月十八日 一五五

昭和十七年經物第一三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件
左記ノ通承認致候

會社名	所在地	株式會社電元社	所在地
株式會社岩手鐵工所	盛岡市仙北町第六地割字西浦地一番地ノ一	株式會社電元社	東京市淀橋區上落合一丁目一二番地
東海造船株式會社	靜岡縣庵原郡袖師村横砂三二九七番地	三木重工業株式會社	兵庫縣美藝郡三木町大塚一五七番地
大江森藏(大)江森藏(組)	高崎市田町一丁目一三番地	日本鍊鋼株式會社	藤澤市藤澤二二三三番地
田代三三(田代)三三(組)	高崎市堀江町五丁目一三番地	朝木工業株式會社	東京市城東區龜戶町八丁目一四番地
株式會社湯川組	臺南市壽町一丁目六番地	日本ゼニスパイプ株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目一八番地
陳壬子(陳)壬子(組)	澎湖廳馬公街馬公二四九番地ノ一	株式會社蒲田發動機製作所	東京市蒲田區新宿町一四〇〇番地
池田好治(池田)好治(組)	臺北市若竹町二丁目一〇番地	株式會社伊藤製作所	東京市京橋區銀座二丁目三番地ノ四
開洋工業株式會社	高崎市湊町二丁目九番地	大東雲母株式會社	奉天市稻葉町四四番地
田中爲吉(田中)爲吉(組)	新竹市南門町二丁目二七九番地	古川勘次郎(古川)勘次郎(事務所)	名古屋市中川區古新町一丁目五五番地
株式會社山下商店	臺北市本町二丁目一一番地	艦本第一一號ノ五八六 海軍艦政本部商船造修處務規程中左ノ通改正ス 昭和十八年二月十二日	
日本油機製造株式會社	東京市芝區田村町三丁目一番地	第六條ニ左ノ三號ヲ加フ 六 船舶、機關、艦裝品ノ發註及契約ニ關スルコト 七 船舶、機關、艦裝品ノ價格ニ關スルコト	

八 船舶基準建造價格協議會ニ關スルコト
第七條中第二號ヲ左ノ如ク改メ第三號及第四號ヲ削ル
二 船舶關係物資ノ需給調査及其ノ運用ニ關スルコト

(參照) 海軍艦政本部報第六七號(昭和十七年八月四日)

艦本第八號ノ六七三

昭和十八年二月十七日

海軍艦政本部總務部長
海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

特設廳施行受託造修費豫算支辨工事ノ工

事費整理ニ關スル件照會

昭和十七年九月三十日官房第五八二三號(海軍公報(部
内限)第四二〇七號參照)第三號ハノ(ニ)ノ(A)ノ(3)ニ依
ル首題工事費ハ工作廳ニ於ケル特設廳工事費支出科目
(造船造兵及修理費)ト一致セザルモ右ハ中央ニ於テ
豫算流用ニ依リ處理スルモノトシ工作廳ニ於テハ支拂
額ハ之ヲ變更スルコトナク其ノ儘トシ特設廳ニ於テハ
官房第五八一三號書式第一號受託工事調書ニ工作廳支
拂額ト特設廳支拂額トヲ各別ニ計上ノコトニ取計相成

度
追テ官房第五八一三號書式第一號ハ本文主旨ニ依リ
改正方手續中ニ付申添候

○ 辭 令

(各通)

遞信局書記 中里 典夫

事務員 田中 徳義

集配員 木練 清志

第六海軍軍用郵便所員ヲ免ス(ニハカ海軍省)

通信書記補 中島 勇

第一海軍軍用郵便所員ヲ免ス(ニハカ同)

遞信局書記補 西島 尙

第七海軍軍用郵便所員ヲ命ス

事務員 佐藤 平二

(各通)

同 垂水 一海

同 龜田 助行

同 村上 春茂

第七海軍軍用郵便所員ヲ命ス
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(ニハカ同)

海軍公報(部内限)第四千三百十九號 昭和十八年二月十八日

一五七

○雜款

○試驗問題發送

第四十五期高等科看護術練習生採用試驗問題

(採用試驗施行期日 昭和十八年四月一日)

右二月八日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ至急通知相成度

記

一 聯合試驗參加各部ノ分ハ横須賀海軍人事部長及大湊警備府副官宛送付

二 單獨試驗施行ノ所轄ヘハ直送

三 聯合試驗參加豫定ノ所轄ニテ豫定變更ノ爲聯合試驗不能ノ向ニ對スル分トシテ横須賀海軍人事部長宛若干部送付

(横須賀海軍病院)

○訂正

一月二十五日附海軍公報(部内限) 七五頁辭令欄伊藤澤美外二名ノ辭令中等級「海軍主計中尉」又ハ「海軍主計少尉」トアルハ何レモ「海軍中尉」ニ訂正ス

○正誤

本月九日海軍公報(部内限) 令達欄「官房備第三四號」ハ「官房備第三八號」ノ誤

海軍公報 (部内限) 第四千三百二十號

昭和十八年二月十九日(金)
海軍大臣官房

○ 令 達

海軍諸例
則登載

官房第一五八號
鎮守府及警備府部外教育班規程左ノ通定ス
昭和十八年二月十三日

海 軍 大 臣

鎮守府及警備府部外教育班規程

- 第一條 當分ノ間鎮守府及警備府ニ部外教育班ヲ置ク
- 第二條 部外教育班ハ當該鎮守府又ハ警備府ニ於ケル左ノ事務ヲ掌ル
- 一 部外海事關係員及航空關係員ノ軍事教育ニ關スルコト
- 二 部外諸學校ノ軍事教習ニ關スルコト
- 三 海軍ニ關スル部外教育鍊成ニ關スルコト
- 四 前各號ノ諸報告及統計ニ關スルコト
- 第三條 部外教育班ニ班長、副班長、班員、班附ヲ置ク

鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官部下職員ノ中ヨリ左ノ區分ニ依リ之ヲ命ズ

- 一 鎮守府部外教育班
 - 班長 人事部長
 - 副班長 人事部第三課長
- 專務班員 地方海軍人事部長
- 班員 兵科佐官一人
- 主務參謀又ハ副官一人
- 人事部第三課部員
- 地方海軍人事部部員
- 實施艦船部隊職員若干人
- 准士官、下士官、兵適宜
- 班附 准士官、下士官、兵適宜
- 二 警備府部外教育班
 - 班長 防備隊司令又ハ港務部長
 - 專務班員 兵科佐官一人
 - 班員 副官又ハ參謀一人
 - 實施艦船部隊職員若干人
 - 准士官、下士官、兵適宜

海軍公報(部内限) 第四千三百二十號 昭和十八年二月十九日

一五九

三 大阪警備府ニ在リテハ司令長官ノ定ムル所ニ依ル

第四條 班長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ班ノ事務ヲ掌理ス
第五條 副班長、班員及班附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

官房軍機密第一七六號

陸海軍石油委員會規約申左ノ通改正ス

昭和十八年二月十八日

内令提
要登載

海軍大臣

第三號別表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表添)

(内令提要卷一、三〇ノ六三頁参照)

○通牒

海人第一一號ノ四七

昭和十八年二月十八日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

戦病ノ取扱ニ關スル件通牒

昭和十七年官房第五八〇號通牒申戦病ノ取扱ニ關シテ

ハ左記ニ依ル義ト了知相成度

記

一 戦地又ハ事變地ニ於ケル自企又ハ不攝生ニ基ク傷病以外ノ傷痍疾病ニシテ恩給法上公務ニ因ルモノト爲ラザルモノハ之ヲ部内限公務ニ因ルモノトシ同通牒第一號(ロ)「公務」中ニハ右部内限公務ヲモ含ムモノトス

二 戦病ノ取扱ヲ受クル者ノ任用進級増俸停年計算等ハ「公務」トシテ處理スルモノトス但シ恩給關係ハ當該法規ノ定ムル所ニ依ル

三 戦病取扱者ニ對シテハ海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則第十三條並ニ海軍下士官兵身上取扱規則第八條ノ二ニ規定スル海軍省人事局長又ハ海軍人事部長ニ對スル通報ハ恩給取扱手續ニ依リ現認證明書又ハ事實證明書及診断書ヲ提出スルモノノ外之ヲ省略差支ナシ

艦本機密第六號ノ二〇四四

昭和十八年二月十八日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

○ 投射銃裝藥包及信號彈格納筐還納ノ件照會(航海長主管)
各艦船部隊供用中ノ投射銃裝藥包及信號彈消耗ノ爲不用トナリタル格納筐ハ最寄軍需部ニ還納相成度

○ 辭令

機械工員 有田 喜三郎
第八艦隊司令部附ヲ免シ吳鎮守府附ヲ命ス(昭和十八年二月十七日 海軍省)

(各通) 海軍少佐 檜野 武良
海軍中佐 鈴木 俊郎
海軍少佐 葛西 清一

陸海軍石油委員會幹事輔佐ヲ命ス(昭和十八年二月十七日 海軍主計中尉 赤澤 景一)

第二課勤務ヲ命ス(昭和十八年海軍省兵備局)
海軍少佐 内田 信雄(大淀)

(各通) 海軍軍醫大尉 西元 英士(同)

軍艦大淀審議委員ヲ命ス(昭和十八年海軍艦政本部)

○ 雜款

○ 郵便物發送先宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザルコト
一 選、初雁
佐世保局氣付(第五軍用郵便所經由) 選、初雁
普通披 佐世保局氣付(高雄局經由)「イ參六」司令部

一 第一海上護衛隊司令部

航空披 臺北局氣付(高雄局經由)「イ參六」司令部

一 神風丸

橫須賀局氣付(第十軍用郵便所經由) 神風丸

一 杵埼

橫須賀局氣付(第十三軍用郵便所經由) 杵埼

一 朝雲(第九驅逐隊司令、軍醫長)

橫須賀局氣付(第十軍用郵便所經由) 朝雲

峯雲(第九驅逐隊機關長、主計長)

橫須賀局氣付(第十軍用郵便所經由) 峯雲

一 第一二五驅潛隊

吳局氣付(第二十九軍用郵便所經由) 第一二五驅潛隊

○ 本日普通公報發行セズ

2070

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千三百二十一號

海軍大臣官房

昭和十八年二月二十日(土)

○ 令 達

官房艦機密第五號ノ三四

昭和十八年二月十八日

各鎮守府司令長官殿

兵器簿ノ件通達

各艦兵器簿機關長主管ノ部中左記ノ通改定ス

海軍大臣

記

類別	別種	品名	稱數		艦別
			常用	常備數 補用	
電球之部	○	ビ式三〇W電球 六V	六	六	戰艦
電燈之部		應急燈	六		
電球之部	○	ビ式三〇W電球 六V	四	四	航空母艦 巡洋艦中
電燈之部		應急燈	四		
電球之部	○	ビ式三〇W電球 六V	二	二	巡洋艦中
電燈之部		應急燈	二		

海軍公報(部内限) 第四千三百二十一號 昭和十八年二月二十日

一六三

電球之部	○	ビ式三〇W電球 六V	個	三	三
電燈之部		應 急 燈	個	三	
電球之部	○	ビ式三〇W電球 六V	個	一	一
電燈之部		應 急 燈	個	一	

水上機母艦中	千歲、千代田
砲艦中	橋立型、海防艦中 古守型
驅逐艦中	白雪型、初春型、白露型、朝潮型、陽炎型、夕雲型、秋月型

○ 通 牒

兵備二第四號ノ二

昭和十八年二月

日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

ステープルファイバー織物配給ニ關スル
件照會

從來ステープルファイバー織物入手ニ關シテハ發註計畫ニ依リ原絲ノ割當ヲ受ケ製織セシメ居リタル處今回商工省ヨリノ要望ニ基キ原絲四〇〇封度以下ヲ以テ製織シ得ルステープルファイバー織物ハ製品トシテ配給ノコトト可致ニ付別紙様式ニ依リ海軍省主務局又ハ主務部タル海軍艦政本部、海軍航空本部及海軍施設本部ヲ經由海軍省兵備局ニ送付相成度

○ 辭 令

追而 一 本手續ハ昭和十八年四月一日ヨリ實施致スベク候

二 原絲四〇〇封度以上ヲ要スルモノハ從來通發註計畫ニ依ラレ度爲念
(別紙様式添)

(各通)

通信書記 福島 貞治
通信書記補 平澤 正男

第十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス

事務員 中島 波江

(各通)

同 同 親山 弘
同 大島 勝一

第十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(海軍省)

○ 雜 款

○司令潜水艦變更
第十九潜水隊司令ハ二月十五日司令潜水艦ヲ伊號第百五十九潜水艦ニ變更セリ
(第十九潜水隊)

○卒業式ニ參列ノ件照會

來二月二十七日(土)午前大分海軍航空隊ニ於テ海軍練習航空隊第三十六期飛行學生、第三十七期飛行學生、第五十二期特修科學生、第五十五期特修科學生ノ卒業式竝ニ優等卒業學生御下賜品拜受式舉行相成候ニ就テハ勤務ニ差支ナキ限右修業者參列方配慮相成度
追テ二月二十日迄ニ當日參列可能者ノ官氏名當司令部及第十二聯合航空隊司令部ニ通知ヲ得度
(海軍練習聯合航空總隊司令部)

○練習生採用試験問題送付ノ件依頼

當隊下士官兵逐次増員ニ付各種練習生採用試験問題ハ左記宛直送相成度
追而今期募集ノモノニ對シテハ至急送付ヲ得度
記

鹿兒島市郡元町 市村大佐事務所宛

海軍公報(部内限)第四千三百二十一號

昭和十八年二月二十日

一六五

○試験問題發送

第六十五期高等科機關術
第三期高等科内火術
第五十六期高等科電機術
練習生採用試験問題
右二月九日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ至急通知相成度
記

一 單獨試験施行豫定ノ各部ニハ直送
二 聯合試験用ノモノハ後送ス(三月上旬發送)
(海軍工機學校)

○事務所設置

安房海軍航空隊(假稱)設立準備事務所ハ一月十日館山海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務開始

伊號第三十九潜水艦艦裝具事務所ハ二月六日佐世保海軍工廠内ニ於テ事務ヲ開始セリ

岡崎、明治航空基地(假稱)設立準備事務所ハ二月十二日大井海軍航空隊内ニ於テ事務開始セリ

松輪艦裝具事務所ハ岡山縣玉野市玉三井造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第十一號掃海特務艇艦裝具事務所ヲ二月十五日撤去セ

○臺中海軍航空隊(假稱) 設立準備事務所ハ臺中海軍
飛行場ニ移轉セリ

追テ郵便物ハ左ニ依リ發送相成度

臺灣臺中郵便局氣付

臺中海軍航空隊(假稱) 設立準備事務所

2074

(様式)

ステーブルファイバー織物請求票						
第	號	昭	和	年	月	日
請求應名印						
第	號	昭	和	年	月	日
主務部局名印						
品名				數量	米碼反	
規格	巾	裡吋	經絲	單絲 雙絲	其 他	
	長	米碼	緯絲	單絲 雙絲		
納入場所						
納期						
備考						

(昭和十八年二月二十日公報(部内限))